

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790300018		
法人名	有限会社 介護サービスセンター前原		
事業所名	グループホーム 喜楽		
所在地	うるま市安慶名362番地11		
自己評価作成日	平成27年10月21日	評価結果市町村受理日	平成28年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=47">http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=47</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェンツ
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成27年 11月30日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・当事業所は、パーソンセンタードケアを基本に認知症ケアを提供しています。</li> <li>・認知症介護実践者研修修了者4名、認知症の方安心して暮らせる環境である。</li> <li>・ボリュームがあり豊富なメニューの食事提供しています。</li> </ul>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は地域密着型サービス事業所としての理念の下、常に利用者の思いや意向の把握に努め、行政や家族等と連携し、住み慣れた地域で利用者がその人らしく生活できるよう支援している。認知症ケアの質の高いサービス提供に向けて、認知症介護実践者研修修了者の職員を配置すると共に新人職員教育や人事考課を実施し、職員の資質向上に努めている。また看護職員を配置し、医療と連携し利用者の健康管理に努めると共に終末期ケアの職員勉強会を開催し支援体制の整備に努めている。食事は利用者の希望を取り入れ事業所で調理し、彩りよく陶器に盛り付けられ、利用者から高い満足が得られている。事業所内は家庭的な雰囲気作りに努めると共に職員意見を反映し、浴室やトイレの環境整備が行われている。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日:平成 28年1月1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・事業所の理念を玄関先、事務所内、多目的室に掲示し周知を図っている。	開設時に地域密着型サービスの意義をふまえて作成した理念は、職員間で共通認識が図れるよう解釈が付けられている。事業所は、理念を掲示し周知すると共に、利用者の生活歴や思いの把握に努め、その人らしい生活の支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域との日常的な交流は行っていない。	事業所は、利用者と散歩時に近隣住民と挨拶し、野菜等の差し入れを受ける他、三線ボランティアや中学生の体験学習を受け入れている。昨年は加入する自治会と敬老会を実施したが、今年度は地域交流への取り組みがなく、継続した課題となっている。	地域密着型サービスの意義と役割をふまえ、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう地域との交流に取り組んで行く事が望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・近隣学校(中・高)の職場体験の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・日々の活動の報告 ・地域のインフォーマル資源の情報収集 ・事故報告書、ひやりハットの改善報告	会議は利用者や家族、行政(1回欠席)や地域代表者等が参加し、年6回開催している。会議では、事業所の活動、ヒヤリハット・事故、外部評価結果等を報告し、各委員からは、無断外出者対策や消防訓練等への助言や情報・意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・うるま市役所介護長寿課空き情報等の情報発信依頼や運営推進会議への出席依頼、介護長寿課主催の認知症ケア研修会への参加等を通し関係作りを行っている。	市担当者とは、申請手続きや待機者情報の確認等で窓口を訪問し、事業所の状況を伝えている。市のグループホーム連絡会や認知症ケア研修会の他、改正介護保険法の説明会や事業所行事(敬老会)にも市職員が参加し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束防止マニュアルがあり、職員が拘束については理解できている。 ・夜間ベッド柵による転落防止や人員の手薄な際の玄関施錠を実施している。	身体拘束をしないケアの方針を掲げ、マニュアルを整備し職員に周知している。日中、玄関は施錠せず、外出する利用者には職員が同行している。現在拘束はないが実施の場合は、家族に説明し同意を得ている。リスクについては、契約時に家族に説明している。	

沖縄県(グループホーム喜楽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・高齢者虐待防止マニュアルがあり、職員は虐待について理解できている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・現在権利擁護を活用するケースはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約の締結・解約・改訂等があった際は、前もって書面で周知し、質疑応答、書面での同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族の面会時には対話の中から意見要望等を伺うよう努めている。 ・運営推進会議にて、家族代表も参加し外部者へ話せる機会がある。	利用者や家族の意見は、日頃のケアの中や運営推進会議の他、面会時等で聞いている。家族から「計画担当者の不在時は、連絡や要望が伝えにくい」との苦情や「老朽化した車イスを新調して欲しい」との声に勤務体制の検討や車イスを購入する等、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・管理者は職員の意見や改善事項等の要望が汲み取れるよう日々心がけている。改善事項等があれば、代表者と情報交換し対応できる体制である。年に1回以上、職員面談を行い意見や提案を受けている。	職員意見は、職員会議や申し送りの他、業務中も随時に聞いている。人事考課による個別面談や職員アンケートを実施し、業務改善への意見、提案の把握に努めている。職員から「浴室や洗濯場に収納棚の設置を」や「トイレをウォシュレットに」の提案に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・管理者は、毎年OJTを行い、職員の質の向上を図っている。代表者はそれを基に職員の個々の意欲や能力を見極めて処遇の改善等を行い、働きやすい職場環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・代表者は、管理者との情報共有に努め個々の意欲や能力に合わせた内外研修へ参加できるように環境に努めている。		

沖縄県(グループホーム喜楽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・沖縄県グループホーム連絡会へ加入。 ・うるま市内のグループホームとの連携と情報共有が図れている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居者本人の希望を傾聴し、コミュニケーションを図り、入居者と共に活動を行うことで、信頼関係を築き接するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居前に、ご家族との話し合いを行い、ご家族の要望・希望・不安等を把握することに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・今までの生活歴、生活環境全般を把握し先入観を持たず視野を広く持ち必要とされている支援、課題を見極められるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・小規模を活かし、家庭的な生活を送ることで入居者、職員共に支えていくことができる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・職員は、入居者の情報を共有し連携を図ることで、家族と共に入居者を支えていくことができる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入所後も馴染みの関係が途切れないよう、家族・地域・サークル等と連携をとり支援している。(カラオケサークル・お盆・正月時の一時帰宅支援を行っている。	利用者地域社会との関係性は、本人や家族、友人等から把握している。事業所は利用者の趣味の継続でカラオケサークル参加時の送迎や友人との外出の他、生活していた場所へのドライブや家族と馴染みの美容室利用等、関係継続の支援に努めている。	

沖縄県(グループホーム喜楽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・共同生活の中で、入居者個々が孤立しないよう声かけ等の支援を行っている。 ・気の合う仲間との交流等、必要に応じて個別の対応を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約が終了しても、何かあれば相談に来ていただけるよう説明している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人や家族、関係者から聞き取りを行い希望や意向の把握に努めている。 ・今までの生活歴を踏まえ、本人の希望や意向の把握に努めている。	利用者の思いは、入浴時やフロアで寛いでいる時に「買い物がしたい。出かけたがたい」等、直接聞き介護計画に位置付けている。難聴や発語等困難な利用者には、耳元での声掛けや表情・サイン・行動等を観察すると共に家族にも確認し、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人や家族、関わりのある事業所からの情報を基に、これまでの経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・入居者個々の観察、職員間での日々の情報交換を行うことで、嗜好・出来る事出来ない事を把握し、自立支援に向けて取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ケアプランが計画通りに実行されているかどうか、あるいは、新たなニーズがないか職員間で常に情報交換を行うことで現状に即したケアプランを作成している。	担当者会議には、利用者(参加がない時もある)や家族、職員が参加し、「趣味を楽しみたい」等、意向を確認し介護計画を作成している。支援内容に沿って実施記録を作成し、毎月担当介護職員と計画担当者がモニタリングを実施している。計画は、更新時と変化に応じて見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の記録の中で、問題点及び改善点等が上がった場合は、全体ミーティング等で議題にあげ職員全員で改善に向けて取り組んでいる。		

沖縄県(グループホーム喜楽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・入居者及び家族の個々のニーズに対してできるだけ対応できるよう取り組んでいる。(受診時の送迎支援など)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・入居者の長らくのお付き合いを大切に維持する為カラオケサークルへの参加を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医はご家族と本人が決めている。希望により訪問診療を使うことも可能 ・適切な医療が受けられるよう、ご家族が対応できない場合はホーム職員にて対応。	訪問診療に変更した利用者1名以外は、これまでのかかりつけ医を家族対応で受診している。看護職員を配置し、事業所と各医療機関間で独自の受診表を活用し、看護師から経過、相談等の情報提供をし、医師からコメント等返信を受け、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・当事業所は、看護師専従で採用し、介護職との情報共有も出来ている。 ・有事の際はオンコールで看護師が対応出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入退去前後は、ご家族、医療相談員との情報交換を行っている。 ・協力医療機関との連携もスムーズに行えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・契約時に重度化や終末期の説明を行い書面にて同意を得ている。終末期等の場合、主治医又は関係機関との連携が図れて、必要に応じてご家族、ドクター、本人等でカンファレンスを開催しケアする体制である。	「重度化した場合における看取り指針」を作成し、利用開始時に利用者や家族に説明し、事前確認書で同意を得ている。看取りケアの勉強会を看護師が職員対象に実施している。現在、終末期対応の利用者はいないが、協力医療機関の変更等調整中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時マニュアル、事故発生時マニュアル等があり、個々の状態に合わせ、的確な対応ができるよう、職員会議等で情報を共有している。		

沖縄県(グループホーム喜楽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に2回の避難訓練を開催できるよう努めている。</li> <li>・火災・津波・地震等個別でマニュアルを作成している。</li> </ul>	<p>災害対策は、防災機器の点検や、避難訓練を1回昼間想定で実施している。訓練については、運営推進会議でも課題として委員間で意見交換をしているが、夜間想定の実施や地域住民の参加協力、災害時の備蓄等の取組が遅れている。</p>	<p>災害対策として、法令等でも夜間訓練も規定されているのでその実施及び、地域住民の参加協力の依頼が望まれる。</p>
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の理念を基に、全職員がパーソンセンタードケアを目標に取り組んでいる。</li> </ul>	<p>職員は、理念の「その人らしく過ごせる」に基づいて、サークル活動継続の為の送迎や、個別に食事のペースに合わせる等で支援している。利用者への声かけで気に掛かる場合は職員間で注意をしているが、その際自身の対応を振り返る機会とも捉えている。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事への参加等、自己決定が行えるよう声かけを行っている。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一日のスケジュールが決まっておらず、入居者が自由に生活できる体制である。入居者個々の希望に即対応できるよう努めている。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お出掛けの前など入居者が好む衣服を選択できるよう声かけを行っている。</li> <li>・散髪、白髪染めの支援を行っている。</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の準備や後片付け、買い物など、入居者が出来る部分(残存能力の活用)を促し支援している。</li> </ul>	<p>食事は3食事業所で調理し、献立は職員間で作成している。週2回は主食をパンにして、副食もパンに合わせたメニューとなっている。利用者は、食材の下ごしらえや片付け等に参加している。食事介助の1名以外は自立し、職員と利用者は、一緒に同じ食事を摂っている。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄、水分摂取、食事摂取量をチェックし個々の体調を把握している。必要に応じてドクターとの情報共有をしている。個々に合わせて食事形態を検討支援している。</li> </ul>		

沖縄県(グループホーム喜楽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、個別で口腔ケアを行い口腔内の観察を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・入居者全員24時間排泄チェックシートを用いて個々に合わせた支援を行っている。	利用者の5人は自立し、他は排泄チェック表を活用してトイレへ誘導している。家族から「夜間はポータブルを使用させたい」との意向に「未だポータブル使用は早い」との職員意見があり、利用者の力を活かしてトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食事の際、牛乳・ヨーグルト等の乳製品を取り入れるようにしている。 ・便秘が続く際は主治医と連携し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・基本的には、入居者本人からの希望があれば、いつでも入浴できる体制である。	入浴は週3~4回で午後を基本としているが、利用者の希望にも応えている。週2回午前中に入浴し、同時に洗濯も済ませる利用者もいる。職員は、入浴を勧める声かけやタイミングが利用者の入浴拒否を引起す場合もある事を共有して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・入居者個々の生活リズムに合わすことを一番に考え、その方にあった休養を取って頂いている。日中は散歩、外出を行い、夜間ぐっすり眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・内服薬の変更等があれば、看護師より申し送りがあり、副作用等の注意事項の説明がある。ケースファイルにも薬の内容書があり、職員も確認できる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・入居者のお付き合いを大切に維持する為カラオケサークルへの参加を支援。 生活歴を鑑み、趣味・嗜好を活かせる取り組みを行っている。(洗濯・調理補助)		



沖縄県(グループホーム喜楽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・希望があればスーパー等へ行き買い物の付き添い支援を行う。 ・カラオケサークルへの参加支援のため送迎を行っている。	散歩や外気浴等、外出支援を個別計画に位置付けて支援している。馴染みのレストランや漁港、季節に合わせたドライブ、地域で開催する闘牛大会には全員で出かけている。個別にサークル活動への参加や正月・旧盆には、外泊する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭管理が可能な方は、ご自身で管理している。 ・お小遣いとして事務所で管理しており必要時に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話はいつでも使用できるよう、事務所前のカウンターに設置している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居者が落ち着く家庭的な空間を提供する為、余計な飾り付けは行っていない。家庭的な空間を感じていただけるよう、毎食ホームにて作り、匂いなどの五感を感じられる雰囲気である。	フロアには、利用者がテレビやお茶等を楽しめるようソファを配置し、台所からは調理の音や匂いがして各々の席で過ごす利用者の五感に刺激を与えている。共用空間の壁には利用者の要望に応え作品を掲示している。浴室を改造して広さを確保している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ソファや食卓にて雑談を交わす等、家庭的な雰囲気を大事にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時には自宅で使い慣れた物の持ち込みが可能であることを説明している。	居室は玄関を挟んで左右に配置され、居室入口には同一の暖簾を掛けてプライバシーを確保している。設置しているベッドやタンスは、利用者の状態や居室環境によって異なっている。居室環境は持込み等に個別の特徴等が現われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・入居者個々のADLに合わせた環境作りを心がけ、居室の位置、ベッドの位置等を検討し、できるだけ自立に向けた支援ができるよう取り組んでいる。		